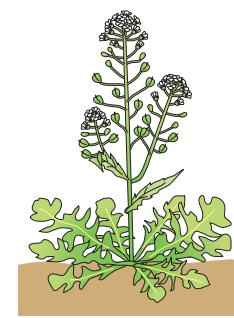




ナズナ

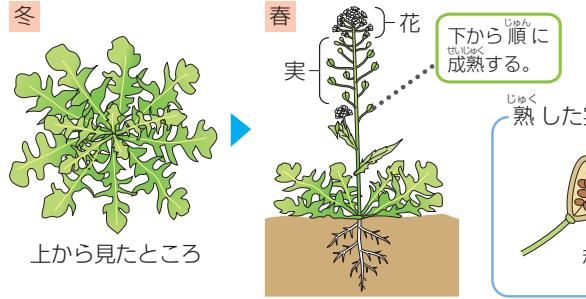
★★★

ナズナは、草むらや道ばたなどに生えていて、春になると白い小さな花をさかせているのが見られます。(1)の1つです。「ぺんぺん草」とよばれることもあります。



成長のようす

ナズナは(2)です。(3)に種子をまくと発芽して成長し、(4)というすがたで冬ごします。春になるとくきを高くのばし、花をさかせます。



+プラスワン
ナズナの実は三味線のぼちに似た形をしていて、中に小さな種子がたくさん入っています。



ナズナもアブラナと同じように、下のほうから順に花がさくんじや。だから、実が熟すのも下のほうからで、種子も下のほうから順にできていくぞ。入試で問われることもあるから覚えておくのじやぞ。

カボチャ

★★☆

カボチャは、野菜として(5)の部分が食用とされています。また、種子も食用とされます。春に種子をまき、夏から秋に収穫されます。

カボチャはふつう、地面をはうようにくき(つる)をのばして畠に広がっており、収穫前の時期には地面に転がっている実を見ることができます。(6)があり、支柱やネットなどに沿って高くのびることもできます。

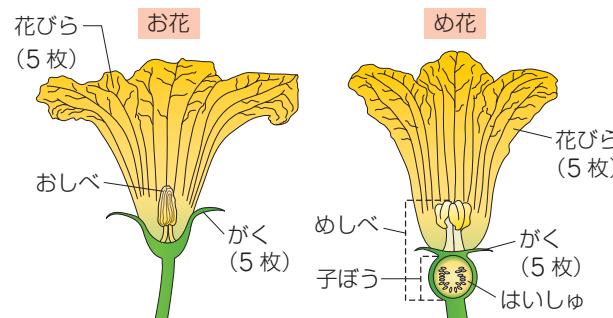


成長のようす

カボチャは(7)です。(8)に種子が発芽すると、つるをのばして広がります。花をさかせ、大きな実をつけると、やがてかれます。

花のつくり

カボチャは(9)と(10)の2種類の花をさかせます。め花にはがくの下に丸くふくらんだ(11)があります。花は黄色で、ヘチマよりも(12)、よく目立ちます。花びらは(13)に分かれていますが、根元ではなくついています。



+プラスワン
カボチャの実の中間に、たくさんの種子が入っています。



ウリ科の植物の花の形はよく似ているが、め花の子房の形から実の形を想像すれば区別できるんじや。入試で出題されたときにはそこをチェックじや。

受粉の仕方

カボチャの花は、花粉を昆虫に運んでもらう(14)です。

ヘチマ

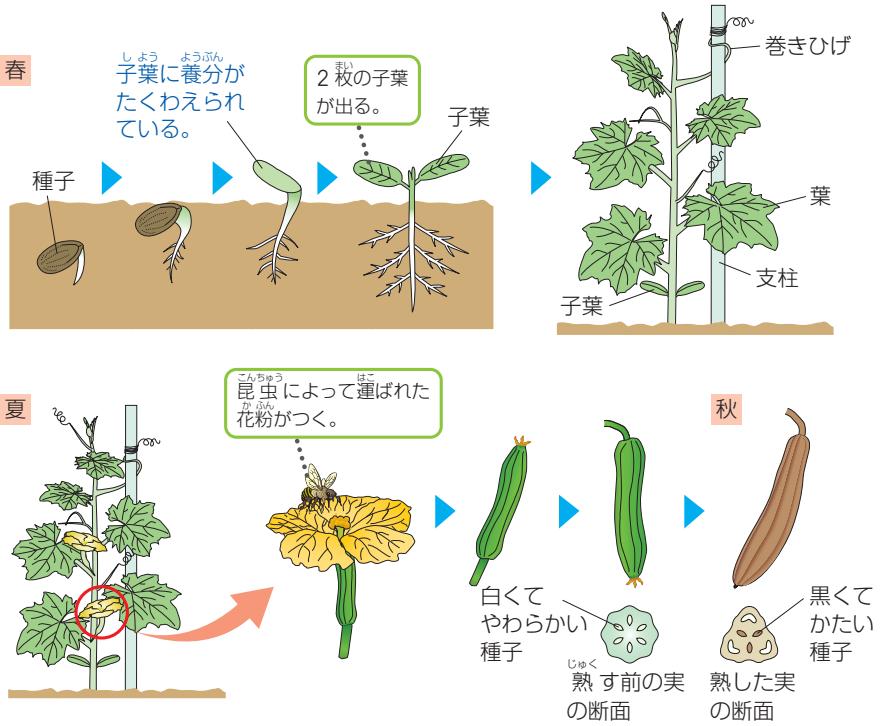
★★★

ヘチマは、学校の花だんや畑などで育てられています。(15)になると黄色の花を咲かせているのが見られ、夏から秋にかけては大きな実をつけているのを見ることができます。

ヘチマの(16)をかんそうさせたものは、からだを洗うスponジとして利用されることがあります。

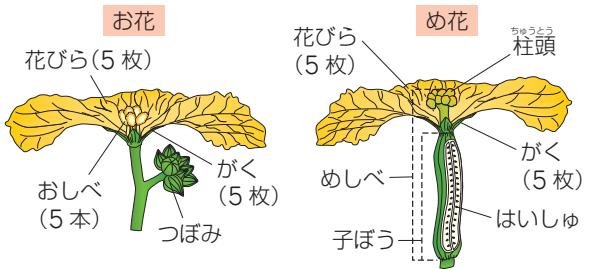
成長のようす

ヘチマは(17)です。春に種子が発芽すると、支柱やネットに沿ってくき(つる)が高くのび、たくさんの葉をつけます。このとき、くきのとちゅうから出た(18)を支柱やネットにからみつかせ、からだを支えます。(19)に花を咲かせたあと大きな実をつけ、秋から冬にかけます。



花のつくり

ヘチマは(20)と(21)の2種類の花を咲かせます。め花にはがくの下に長くふくらんだ(22)があります。花は黄色で、よく目立ちます。花びらは(23)に分かれていますが、根元ではくっついています。



+プラスワン

お花は朝にさき、昼ごろにしぶんでも花が落ちます。め花は花が落ちません。め花ははじめ上向きですが、下向きになって実が熟していきます。



ヘチマの花は花びらが先のほうでは分かれているが、根元ではくっついているので、花びらが1枚1枚分かれるととはいえないから、注意するのやぞ。

受粉の仕方

ヘチマの花は、昆虫に花粉を運んでもらう(24)です。お花にとまってからだに花粉のついた昆虫が、め花にとまり、花粉がめしべにつくと(25)します。



入試では、お花やめ花に袋をかぶせるなどして昆虫が近づかないようにしたときに実ができるかどうかを調べる実験の問題がよく出題されるんじや。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。